

可能性があるため、ネームバンド等直接本人から読み取れるバーコードリーダーによる選択方法に変更可能であればさらに安全性の高い検査となるので読み取り機器の取り付けをお願いしたい。

学術総会開催にあたりご尽力いただいた理事の皆様、ならびに総会に出席いただいた会員の皆様へ本文をお借りし感謝致します。

研究発表③ 座長集約

松江赤十字病院 磯田 康範

演題 10 「ER 当直の 2 交替制勤務導入について」(日本赤十字社和歌山医療センター)

大笹らは、多忙な ER 業務について、当直から 2 交替勤務への一部変更により、業務にかかる影響について 19 名によるトライアルを行った。全体的には体力面の負担軽減であったが、収入面では不安が残った。体力面では、医療安全推進上、高年代にて効果が認められた。一方、低世代では日勤体の人数削減が予想され休暇の取得制限と収入低下など不安となる結果であった。施設側では人件費の削減、医療安全、検査、治療効率の向上を目的とするが、業務側では一部を除く技術スキルの均一化、年齢差の業務格差是正など精神面への補助など多くの問題点が挙げられる。検査装置の利便性、検査効率の向上により検査時間算出から人員数を如何に工夫するかなど大きな問題を考えさせるものであった。

演題 11 「放射線科における TQM 活動～足部立位撮影を安全に行う為に～」(大分)

日野らは、TQM 手法を用いて医療安全の向上を図る目的として、技師 5 名による撮影時特に不安と思われる足分立位撮影の検討を行った。特性要因図をもとに不安要素を分析し、撮影補助具ならびに撮影マニュアルを作成した。これにより撮影時の不安が解消し改善された結果を得た。医療における質と安全性を向上させる上で、TQM 手法が今日多くの部署にて活用され、施設では活発に行われている。今回の視点はよい結果に結びついたが改善されないものも多くはない。要因分析がしっかり行われることやその手法を十分に活用よして、未だ作成されていない撮影マニュアルを考案して頂きたい。

演題 12 「新人用マニュアル作成についての考察」(京都第一)

中山らは、新人教育内容の均一化を図るため教育用マニュアルの作成を試みた。このマニュアルをもとに一年間実施を行い検討した。これにより、教育内容が統一され短期間且効率的に効果がみられた。日常業務に於けるスキルを統一できることは良いと思われる。指導者の人数に制限されることがない点も良い結果であった。これを更に応用して、一般業務、救急業務、専門レベルと教育マニュアル作成について検討して頂きたい。また、我々もこれを活用し、そして赤十字社施設の技術が均一になることを願いたい。

演題 13 「診断用モニタの施設環境が診断能に与える影響の現状調査」(名古屋第二)

真野らは、施設内における画像診断に用いるモニタ性能や設置環境の違いが診断に与える影響について報告した。当技師会の専門部画像情報部と連携を取り、赤十字 10 施設の協力のもと調査を行った。モニタ評価および胸部臨床画像評価を ROC 解析にて検討した。反射輝度を加味した環境照度が低いほどコントラストは向上した結果であった。92 施設の環境は様々であるが、モニタ性能は一定であることから、これらを精度良く管理することが重要であるし責務と捕らえることが肝要と思われる。アナログからデジタル画像への転換は多くに意味で新しく技師が関与する時代(とき)と考えさせられた。

演題 14 「当院における造影剤副作用対策シミュレーションの実践」(深谷)

斎藤らは、造影 CT 検査中に CPR を経験した。その為、適切な処置ならびに対応ができることを目的にシミュレーションを行うことで、連絡体制および役割について検証した。

シミュレーションを題材として医療チームが共有することが重要であることが知られた。

造影剤の副作用のみならず、様々な容態変化が発生する可能性が有ることから、各撮影室での訓練や BLS 講習を定期的に行うことも加えて救急医療に参加して行き、救急医療に携わる当たり前のような地位を確保して行きたいものである。

演題 15 「放射線災害に対する当院の取り組み」(伊勢)

村田らは、放射性物質を取扱う施設は一般社会において数多くある。このことに着目して、放射線技師の視点(知識)から、これらに協力して対応できることを行った。放射線災害、事故、火災により放射性物資の拡散からの被ばくを最小限に抑えることが重要であると云っている。各職種の放射性物質対応マニュアルなどは作成しているものの、実施訓練は単独では問題も多く中途半端に終わることがしばしば、見受けられる。しかし、村田らはこれらを払拭するかのよう行政と協定を結び積極的活動に着手した。各事業所など多くの地域住民皆氏との協力体制が信頼を生じさせる大変重要な取組みを紹介した。今後継続するにあたり、多くに問題点も発生するが我々の標として、今後の活動を発展させて頂きたい。